

相模原清新 氷川神社

開墾記念碑 碑文

およそ、一大事業を思い立つ人は多けれども、それを成就する人は、甚だ稀なり。こは、其の志を遂げるに非常の勇氣と勤勉とに加うるに、強健なる人にあらざれば能く成しがたきによる。

ここに相模の国高座郡小山村の人、原清兵衛翁は此の勇氣と勤勉と強健との三つを兼ね備えたるすぐれ人にして、相模原のうち相模野の開墾を思い立ち、ついに成就されたる一大美挙あり。

翁の家は甲斐の武田家の勇将原大隅守の末にして、武田家滅亡の後此処にのがれ住み、農事に一身をゆだねられ、世々相継ぎて翁に至る。翁は寛政七年二月其の家に生まれ、幼名を清蔵と呼べれ長じて清兵衛光保と名のらる。かくしきある旧家なるに翁人となり内に不屈の勇氣を貯えたるも、温厚篤実を以て人に交われしかば、其の信用おおかたならず、文化六年先考の後を受けて家督を継ぎしより、能く人をもち能く業を進めて家道ますます栄え、男女の子五人を挙げられしに、長子清蔵氏家事をとるにたえるよわいになれりとして、清兵衛の名をつがせて家をゆずり自らは隠居してその名を嘉兵衛と改めらる。

なみなみの人ならば我事おわれりとして閑日月の中に、老をやしなわるべきに、翁は久しく意中に考え置かれし開墾のことを思い立ち、相模原のうち相模野の荒地を開かんとして、おおよけに出願されしは天保十一年の初めなりしが、事容易ならねば、さうなくば許されざるを、翁があまたたび熱心に請い申さるる筋の道理をや認められけん、同十四年九月、時の代官江川太郎左衛門君より開墾許可の由を達せられしかば、多くの人を駆集めて、きり開きに打ちかゝり、道路を通じ水利をはかり、民家四十九戸建て堀井十五カ所を設けて飲料に当て、戸毎にあるべき限りの農具をも配り備え、ここに移住せしむべきものは近村農家の二・三男の他に出来るも差支えなきもののみを入るる事として、初めて村落を形づくりしかば、安政三年七月より八月に亘りて、官より檢地を行なわれ、二百五町九反式畝七歩と確定せられ、新に清兵衛新田と称うべしといひ渡されぬ。

翁はいささかも私利をはからず、費用をなげうちてこの洪益を、後に遺さるるを悦び、七十四才の高令をたちて慶応四年五月身まかられ小山村なる先塋の側らに葬られぬ。

翁の後を受けたる清兵衛氏は、明治二年二月世を去りて、今のあるじ清兵衛氏其の家を継がれしが、開墾地は畑物に養蚕に年々に榮えて、今は七十余戸となるにつけて、故翁の功勞を追懐すればいよいよ深く、いかで此の事を後の子孫に伝えんとて有志のもがら相謀りて、建碑のこと定まりぬればとて、おのれに撰文をこわる。おのれ亦翁の公德心厚きに感じ、辞せずしぞ、ここに其のあらましを記すこととはなりぬ。時は明治四十五年六月

開墾記念碑

後一位勲一等源慶喜書



